


竹喬美術館 ゆかりの 画家たち

 笠岡市立竹喬美術館

〒714-0087 岡山県笠岡市六番町1-17
TEL 0865-63-3967 FAX 0865-63-4496

近代から当代の画家まで——3期に分けてご紹介



令和7年
2・22 ±
↓ 9・7 日

第一期 2・22 ± ↓ 4・6 日
第二期 4・26 ± ↓ 6・22 日
第三期 7・12 ± ↓ 9・7 日

開館時間 9時30分～17時（入館は16時30分まで）
入館料 一般500（400）円※（内は団体20名以上
高校生以下無料（学生証を提示）
65歳以上は無料（年齢のわかるものを提示）

休館日 毎週月曜日（ただし2・24・5・5・7・21・8・11は
開館し、2・25・5・7・7・22・8・12は休館します）
4・7月～25金、6・23月～7・11金
（展示替期間中）
各期の展示期間中以外は休館となり、ご入館いただけません。ご了承ください。



左上 富岡鉄斎《高士觀瀑図》明治末から大正初期【第二期】
中上 吹田草牧《梅雨霽》（部分）昭和7年【第二期】
右上 上島鳳山《緑陰美人遊興之図》明治42年【第一期】
左下 池田清明《バリージョを持つ踊子》平成24年【第三期】
右下 菊池芳文《清溪》大正前期【第一期】 すべて当館蔵

竹喬美術館

ゆかりの

画家たち

笠岡市立竹喬美術館では昭和57(1982)年10月に開館して以降、小野竹喬を中心に、竹喬芸術を多角的に捉えるという観点から、国画創作協会の画家、また笠岡に縁のある画家などの展覧会を開催しています。さらに、当館が評価すべきと判断した現代作家も展覧会の対象としてきました。このような展示方針の結果として、展覧会開催を通して、作家本人や、ご遺族から数多くの貴重な作品が当館に寄贈されるに至っています。そこで、本展覧会では、40年以上におよぶ当館の歴史を振り返るとともに、三期にわたって当館所蔵作品を中心とした展覧会を開催します。

各期の展示期間中以外は休館となり、ご入館いただけません。ご了承ください。

第一期

近代日本画の黎明

明治への彩り

2・22(土)→4・6(日)



伊藤草白《枇杷》
大正11年 達高コレクション [第二期]



小野春男《女性座像(絶筆)》
昭和17年 当館蔵 [第三期]

第二期

大正・昭和 画壇の諸相

4・26(土)→6・22(日)

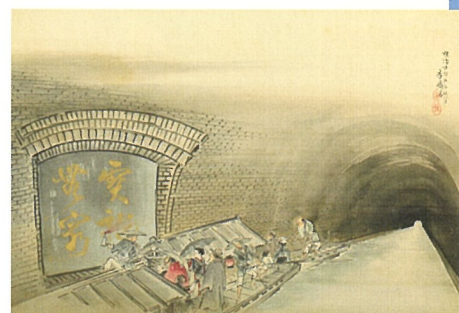


岩倉壽《野の風》
平成7年頃 当館蔵 [第三期]

第一期では、竹喬の師である竹内栖鳳らの世代、また、笠岡出身で大阪を活躍の拠点とした上島鳳山などにも焦点を当てることで、竹喬以前の日本画家を中心に紹介します。

●ギャラリートーク

2・22(土)→3・23(日)
各日13時30分→14時30分



谷口香嶺《琵琶湖疏水(第一疏水)》(部分)
明治25年 寄託品 [第一期]

第二期では、竹喬と同時代の画家を中心に、京都画壇と東京画壇、国展作家と院展作家などの対比から作家の個性を考えます。また、画壇と距離をおいた文人画系の画家についても作家同士の交流を交えながら紹介します。

●ギャラリートーク

4・26(土)→6・8(日)
各日13時30分→14時30分

第三期

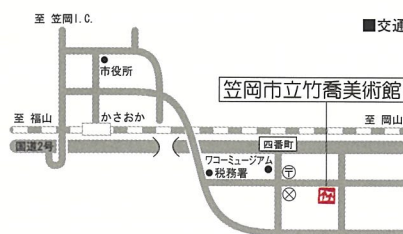
現代・当代の 画家たち

7・12(土)→9・7(日)

第三期では、岩倉壽や林正明、金谷朱尾子といった現代の日本画家の作品や、現在活躍中の池田清明、藤川汎正といった当代作家の作品をご紹介します。

●ギャラリートーク

7・26(土)→8・23(土)
各日13時30分→14時30分



■交通 山陽自動車道 笠岡I.C.から 15分
JR山陽本線笠岡駅から ●タクシー5分 ●徒歩25分
●笠岡駅前4番のりば 神島(こうのしま)循環/乗時(のりとき)行き/美の浜(みのはま)行き
「市民会館・竹喬美術館前」下車すぐ 所要5分・160円

笠岡市立竹喬美術館

〒714-0087 岡山県笠岡市六番町1-17
TEL0865-63-3967 FAX0865-63-4496

<https://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/museum/> ちつきよう



検索